

## 第3学年美術科学習指導案

日 時 平成29年11月8日(水) 6校時

場 所 山田町立山田中学校 美術室

学 級 3年4組(男子16名 女子16名 計32名)

指導者 教諭 佐々木 倫生

1 題材名 「記憶に残る情景」 ～山田町の光をとらえて～

2 題材について

(1) 教材観

本題材は、学習指導要領の第2学年及び第3学年の目標(2)「対象を深く見詰め感じ取る力や想像力を一層高め、独創的・総合的な見方や考え方を培い、豊かに発想し構想する能力や自分の表現方法を創意工夫し、創造的に表現する能力を伸ばす。」ことを主なねらいとし、A表現(1)、(3)及びB鑑賞(1)の内容に基づいて設定した題材である。身近な風景を「光」という視点からとらえ直して、風景画の表現に結びつけるものであり、「共通事項」の視点を生徒自身がより強く意識して制作に取り組むことができるよう、生み出される作品の内面的価値を重視した絵画表現を目指す題材として設定した。

日常の中で感動を覚える風景やその一瞬をとらえた時、「美しい」と感じる時に私たちは自然界に存在する様々な光と、光によって生み出される色彩や陰影に包まれ、人は魅了される。対象物そのものの形の美しさのみならず、時間や天候によって変化した光から生み出される色彩や陰影が加わることによって、その瞬間しか味わえない深い印象となって心に刻まれ、感動として残るものである。制作時においても、それらについて感性を働かせてじっくりと見詰め直すことで、風景から感じ取ることができる雰囲気、情緒などで大きく変化すると言える。実際、光によって追加される情緒や感動は、現代では夜間の「ライトアップ」として、建築物、桜並木などに人工的に光を当てることで、多様に演出されたり再現されたりする場合に生かされている。

対象を光や陰影という視点で感じ取り、絵の中に形や色彩として表現していく過程では、自ずとそれらが自分にもたらす感情の理解や、遠近法等の三次元的空間認識が必要不可欠になる。「光や陰影に着目する」ことを通じて色彩や空間への見方や感じ方が深まり、これら創造的な技能に関わる課題についても主体的に解決していくことができる題材である。

(2) 生徒観

本校の第3学年の生徒は、美術の時間、意欲的に集中して作業を進めることができている。時として静かすぎで授業だと思えないくらいの静けさで作業を黙々と進めることができる。前回行った篆刻での復興のシンボル制作においても抽象的な表現の価値を各自で考えながら、創造性豊かに制作を行うことができた。昨年度から継続して行っている他者との交流から自分の意見をもつ生徒が増えてきている。このことから美術の時間を大切にし、自分なりの表現を確かなものへ変容させる力をもっている生徒が多いのだと感じる。ただし、本校の生徒の課題として挙げられる自ら判断し、実行する力が不足している生徒が多い。これらを意識し、授業において、発想を広げるよう展開しながら、作品に対して自分なりの価値をもたせ、他者の意見を参考にし、制作を深めさせたい。

(3) 研究主題との関わり

○生徒指導の三機能

・「自己決定の場を与える」

どの授業の中でも、個人で考える時間は必ず確保している。グループワークを行う際でも個人で考えてから行い、グループワーク後にもう一度個人で考えをもつようにしている。

美術の学習では、表現や鑑賞の活動の過程において、主題や表し方、意味や価値などを生徒が考え自己決定することを大切にしている。本題材においては、「記憶に残る情景」をテーマに、生徒自身が強く表したい郷土の風景を考えさせ、表現させていく。その際、参考作品等から光がもたらす効果を感じ取らせ、それをもとに表したい情景やその表し方を深く考えさせ、自己決定させていく。

#### ・「自己存在感を与える」

グループでの活動において全員に役割をもたせ、それぞれが生み出した意味や価値が認められるよう活動をしている。「表現活動」と「鑑賞活動」から自分の考えや仲間の考えに対して意見を発表させることなどをグループワークの中に取り入れている。

自分が生み出した主題や表し方、意味や価値を生徒自身に自覚させたり、教師が認め価値付けたりすることをしている。本題材では、それぞれの主題のよさや画面構成のよさ、彩色のよさなどを感じ取る場面を設定し、生徒一人一人の表現が他者から認められるよう配慮していく。

#### ・「共感的な人間関係」

他者の表現のよさや見方・考え方のよさを見だし、認め合うなど交流を通じ、互いを尊重し良好な人間関係を築きあげるように配慮をしている。また、本題材では、発想や構想する場面や彩色の場面において、協働で問題解決する学習活動や相手の考えにより沿い解決策を考える学習活動を意図的に設定していく。

### ○見通し・振り返り

#### 「見通し」

これまで、題材全体と一時間当たりの見通しをもたせながら授業を行っている。本題材においても、題材の初めの時間には、題材を通して身に付けたい力を黒板に表示し、学習全体の流れを確認することで生徒が「何を目指し」「どのように学習を進めていくのか」を理解できるようにしていく。また、単位時間においては、本時の学習課題によって、何をどのように目指すのか見通しをもたせるようにしていく。

#### 「振り返り」

題材全体と一時間当たりの振り返りをさせている。毎時間、授業の振り返りやまとめを書くことで①どのような活動を行ったのか、②どのようなことを学んだのか、③今後はどう生かしていくのかの3つの観点で行い、生徒が次時に向けての課題や見通しをもって取り組めるようにしている。さらに題材の最後には、題材で身に付けたい力に即して題材全体の振り返りを行い、成果と課題を自覚できるようにしている。本題材についても同様に行っていく。

### 3 題材の目標

故郷の風景に関心をもち、光をとらえて深く見つめ感じ取ったことを、造形的な効果を生かし創造的に表現するとともに、他者の作品から作者の心情や意図と創造的な表現の工夫などを感じ取り味わうことができるようにする。

#### 4 題材の評価規準

美術への関心・意欲・態度	発想や構想の能力	創造的な技能	鑑賞の能力
<p><b>関①</b>「記憶に残る情景」というテーマをもとに、「光をとらえる」という視点で深く見つめ感じ取った故郷の風景の特徴や美しさを表現することに関心をもち、主体的に主題を生み出し構想を練ろうとしている。</p> <p><b>関②</b>材料や用具の特性などを主体的に生かし、表現方法を工夫して表現しようとしている。</p> <p><b>関③</b>形や色彩などの特徴や印象、本質的なよさや美しさ、作者の心情や意図と創造的な表現の工夫などに関心をもち、主体的に感じ取ろうとしている。</p>	<p><b>発①</b>「記憶に残る情景」というテーマをもとに、「光をとらえる」という視点で深く見つめ感じ取った故郷の風景の特徴や美しさから主題を生み出している。</p> <p><b>発②</b>主題を基に風景全体と光と陰影部分との関係、単純化や省略、強調などを考え、光がもたらす効果を生かし、創造的に構成を工夫し、心豊かに表現する構想を練っている。</p>	<p><b>創①</b>材料や用具の特性を生かし、表したいイメージをもちながら自分の表現意図に合う新たな表現方法を工夫するなどして創造的に表現している。</p>	<p><b>鑑①</b>形や色彩などの特徴や印象などから全体の感じ、作者の心情や意図と創造的な表現の工夫などを感じ取り、自分の価値意識をもって味わっている。</p>

#### 5 題材の指導計画・評価計画（本時1／6）

時間	学習内容	目標	評価の観点				評価規準（評価方法）
			関	発	創	鑑	
1時間 課題の把握と発想 構想 本時	<ul style="list-style-type: none"> <li>自分が表したい風景を考察する。</li> <li>制作における見通しを考える。</li> </ul>	山田町の風景や学校に対する記憶や思いをもとに表現したい主題を生み出す。	関①	発①			<p><b>【関①】</b> 「記憶に残る風景」というテーマを基に、「光をとらえる」という視点で深く見つめ感じ取った故郷の風景の特徴や美しさを表現することに関心をもち、主体的に主題を生み出し構想を練ろうとしている。（観察、学習プリント）</p> <p><b>【発①】</b> 「記憶に残る風景」というテーマを基に、「光をとらえる」という視点で深く見つめ感じ取った故郷の風景の特徴や美しさから主題を生み出している。（学習プリント、アイデアスケッチ）</p>

2時間 表現の発想 ・構想	・構図や配置、奥行き、光の表現を考え、アイデアスケッチをする。	主題をもとに、奥行き、光や陰影を考察し、構成、配置、色彩について考え、表現の構想を練る。	関①	発②		<p>【関①】 「記憶に残る風景」というテーマを基に、「光をとらえる」という視点で深く見つめ感じ取った故郷の風景の特徴や美しさを表現することに関心をもち、主体的に主題を生み出し構想を練ろうとしている。 (観察、学習プリント)</p> <p>【発②】 主題を基に風景全体と光と陰影部分との関係、単純化や省略、強調などを考え、形や色彩の効果を生かして創造的な構成を工夫し、心豊かに表現する構想を練っている。(アイデアスケッチ、学習プリント)</p>
2時間 制作	・水彩絵の具やポスターカラー、色鉛筆などの特性を生かし、色彩を豊かに表現する。 ・混色や重色させながら表現意図に応じて制作する。	構想をもとに、自分の表現意図に合う表現方法を工夫しながら創造的に表現する。	関②		創①	<p>【関②】 材料や用具の特性などを主体的に生かし、表現方法を工夫して表現しようとしている。(観察、学習プリント)</p> <p>【創①】 材料や用具の特性を生かし、表したいイメージをもちながら自分の表現意図に合う新たな表現方法を工夫するなどして創造的に表現している。(学習プリント、作品)</p>
1時間 鑑賞	・ワークシートに自分の作品についての説明を記述する。 ・お互いの作品を鑑賞し、批評し合う。	他者の作品から、制作者の主題、意図と創造的な表現の工夫を感じ取る。	関③		鑑①	<p>【関③】 形や色彩などの特徴や印象、本質的なよさや美しさ、作者の心情や意図と創造的な表現の工夫などに関心をもち、主体的に感じ取ろうとしている。(観察、学習プリント)</p> <p>【鑑①】 形や色彩などの特徴や印象などから全体の感じ、作者の心情や意図と創造的な表現の工夫などを感じ取り、自分の価値意識をもって味わっている。(学習プリント、発言内容)</p>

## 6 準備

生徒：筆記用具、教科書、ファイル、えんぴつ

教師：学習プリント、画用紙、色画用紙、ポスターカラー、色鉛筆、鑑賞作品カラープリント、プレゼンテーション機器

## 7 本時の指導

### (1) 本時の目標

- ・山田町の風景や学校に対する記憶や思いをもとに、表現したい主題を生み出すことができるようにする。

### (2) 本時の指導構想

本時の導入では、画家モネの連作から時間、天候などを推測することを通し、光が感じられる表現がもたらす効果を感じ取らせる。そして、「光をとらえる」ことが本題材のテーマである「記憶に残る情景」を表現する際

に取り入れる視点であることを伝え（理解させ）、本題材で目指す表現について見通しをもたせる。その際、4人グループで互いの見方や感じ方を出し合い協働で考えさせることで共感的な人間関係の育成の一助としていきたい。

本時の展開では、記憶に残る風景に関する事前アンケートの結果に基づいて教師が撮影した山田町の風景写真を手掛かりに、自分の描きたい風景を自己決定させていく。その際、なぜその風景が記憶に残るものなのか記述させ、自分の思いが明確になるようにしたい。また、参考作品をもとに表し方を考えさせ、アイデアスケッチすることを通し、「何を表したいのか」を自分の中で確認させ主題を深めていけるようにする。その際、ペアで互いの表現構想を検討させることで、互いに学び合いながら表現への見通しをもてるようにしていきたい。

本時の終末では、自分が表したい「記憶に残る情景」に対する思いや願いを学習プリントに記述させ、表現への意欲を高めていきたい。

### （3） 本時の評価規準

- ・「記憶に残る風景」というテーマをもとに、「光をとらえる」という視点で深く見つめ感じ取った故郷の風景の特徴や美しさを表現することに関心を持ち、主体的に主題を生み出し構想を練ろうとしている。【関①】
- ・「記憶に残る風景」というテーマをもとに、「光をとらえる」という視点で深く見つめ感じ取った故郷の風景の特徴や美しさから主題を生み出している。【発①】

(4) 展開

段階	学習内容	生徒の学習活動	指導上の留意点	評価規準と評価方法
導入 10分	1 鑑賞 画家モネの連作 作品の読み取り	見通し ・個人で作品を鑑賞し、読み取り気づいたことを記入する。 ・4人グループになり、話し合いながら作品の読み取りを深める。【共感】	・読み取りが難しい生徒には、時間や天候、季節など視点を与える。	
表したい「記憶に残る情景」を見つけよう ～山田町の光をとらえて～				
展開 33分	2 主題の創出	見通し ・予め自分が選択した風景の写真を見ながらその風景への想いを振り返り、学習プリントに記述する。	・「記憶に残る情景」である理由を、エピソードや思い出を想起させながら、表したい主題を考えさせる。	【関①】 (観察、ワークシート) 【発①】 (ワークシート、アイデアスケッチ)
	3 表現方法の検討	・鑑賞作品から受ける印象や特徴を捉えながら、「光をとらえた表現」を自分の作品制作に生かせるのかペアで交流する【共感】。	・空気遠近法や色彩遠近法などの効果について説明をする。	
	4 主題の深化	・自分の想いをもって描きたい情景を選択し、ホワイトボードの写真などから思い浮かべ、実際に描き表現の構想をする【決定】。	・作業が難しい生徒には、全体を描くのか、部分的に描くのか考えさせながら自分の想いに当てはめさせる。	
	5 制作の見通し	見通し ・作業全体の計画を立て、見通しをもちながら制作をしていくことを自分で決定する。	・完成させることを目標にさせるために自分自身で見通しをもたせる。	
終末 7分	6 振り返り	振り返り ・学習課題をもとに本時の学習を振り返る。	・本時の成果と課題を捉えさせ、次時に向けて課題を見いださせる。	
<p>【「振り返り」文例】</p> <p>今日の授業で自分自身の記憶に残る山田町の風景を考えることができました。そして、光をテーマにしてその風景を考えることでその一瞬の風景をこれからも大事にしようと思いました。次の制作までにその風景をもう一度見てこようと思います。</p>				

【決定】：自己決定の場を与える手立て 【存在】：自己存在感を与える手立て 【共感】：共感的な人間関係を育成する手立て